資料７

第１回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

１　日時
令和元年５月２０日（月）１８時３０分から１９時３０分まで

２　会場
京都市総合教育センター 永松記念ホール　他

３　出席者
⑴　選定委員　１０３名（７名欠席）
⑵　教育委員会事務局　１１名
在田教育長，佐藤総合教育センター所長，清水指導部担当部長，
清水指導部顧問，安藤学校指導課長，関学校指導課担当課長，
竹内統括首席指導主事，太田統括首席指導主事，
中澤首席指導主事，安居首席指導主事

４　議事
教科書選定に関わる教育長からの諮問及び教育委員会事務局からの説明の後，各教科調査研究部会で協議が行われた。
⑴　在田教育長から挨拶及び令和２年度から令和５年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する各教科教科書の選定についての諮問を行った。
⑵　安居首席指導主事から教科書選定の進行，公正確保等についての説明を行った。
⑶　委員の互選により正副委員長が選出された。
⑷　調査研究部会全体会で，業務内容説明及び部会長の選出が行われた後，各部会において，副部会長の選出，調査研究における「選定の視点」や調査研究方法，今後の部会開催日程について協議が行われた。

第２回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

１　日時

令和元年６月１９日（火）１８時３０分から２０時４０分まで

２　会場

京都市総合教育センター　１階　第２研修室

３　出席者

⑴　選定委員　１０４名（６名欠席）

⑵　教育委員会事務局

佐藤総合教育センター所長，清水指導部担当部長，清水指導部顧問

安藤学校指導課長，関学校指導課担当課長，竹内統括首席指導主事，中澤首席指導主事　他

４　議事

⑴　委員長から挨拶が行われた。

⑵　事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後，教科部会ごとに部会長及び指導主事から，現時点での調査研究の状況についての報告を行い，外部委員からの意見を踏まえ，協議した。

（当日は，選定委員会と並行して，各教科調査研究部会も開催された。）

５　外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

⑴ 各教科内容について

・社会科，特に歴史学習に関わる記載内容は出版社によって違いがあるのか。歴史学習の進め方は縄文時代から近代史という流れか。

→教科書は史実に基づいて記述されているため，出版社によって記載内容に大きな違いは生じない。新学習指導要領では，主権者教育の視点から，政治を先に学び，その後，歴史を学ぶこととなる。

・外国語科を学級担任が指導することについて，リスニングやスピーキングのレベルが教員によって差があるのではないか。

→ＩＣＴ機器やＡＬＴも活用し，一定の平準化は図れている。また，不完全な英語でも，まずは英語を話してみることや，ＡＬＴと会話している様子を児童に見せるなど，児童の学習意欲を高めることを意識した指導を心がけていきたい。

・外国語科の新設に伴い，教員への負担が増えているのではないか。

→学習指導要領に基づく，５領域別（聞くこと・読むこと・話すこと〔やり取り〕・話すこと〔発表〕・書くこと）の到達目標を達成するため，適切な指導方法を検討したい。教員研修も充実させ，「教えすぎない，やりすぎない」よう，教員の指導力向上を図っていきたい。

・道徳について，保護者として，子どもが道徳ノートに書いたことを読み，保護者欄に一言書き添えることを通して，子どもが何を学び，考えているかを知り，また，道徳教育について考える良い機会を得ている。授業参観でも道徳を取り上げる学校が多く，保護者も巻き込んだ道徳教育となっているのは良いことである。

・道徳について，教材の登場人物の心情理解にとどまったり，その判断が正しいか否かを考えるのではなく，児童が自分事として捉えられるような道徳教育になって欲しい。

→教材を通じて，登場人物の心の葛藤を自分事として捉えることが道徳教育において重要なことである。また，児童の書き込んだノートへ保護者が一言添えることが，児童の学びのサポートとなっている。

・算数や理科でプログラミング教育が取り上げられているが，調査研究部会での議論はいかがか。

→算数については，文部科学省から指導例として示された，正多角形を学習する場面を中心に，各社がどのように取り扱うか注視していたところである。出版社によって，単元末で取り扱っているものや巻末に掲載しているものなど，扱い方に違いが見られるが，総じて取り扱いは少なかった。理科については，プログラミング教育を扱う場合には，一定の教具が必要となる。プログラミング教育を踏まえた学習が理科の目的に沿っているかどうかという点が重要となる。

・新学習指導要領では，統計教育の充実が打ち出されているが，調査研究部会での議論はいかがか。統計教育は実生活との関わりという点で重要である。

→算数においては，個々のグラフの理解だけでなく，複数のグラフを比較・検討することに重きが置かれているが，グラフの活用については出版社によって取り上げ方が異なっており，調査研究を進めている。

⑵ その他

・教科書に掲載されるＱＲコードやＵＲＬは授業の中で扱うのか，家庭で保護者と一緒に見るものなのか，どのような想定がなされているのか。

→学校に整備しているＩＣＴ環境で活用できるものについては，内容に応じて，教員が授業で取り上げることも考えられる。また，インターネット環境は家庭によって様々であるため，宿題として扱う際には配慮が必要と考えている。

・ユニバーサルデザインの観点について，調査研究部会での議論はいかがか。展示会でも意見が出ており，調査研究の際には留意されたい。

→各社とも，文字や写真も見やすく，色調・挿絵のタッチ等が優しいものとなっており，ユニバーサルデザインについて配慮されている。引き続き調査研究を進めていく。

第３回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

１　日時

令和元年７月８日（月）１８時４０分から２０時３０分まで

２　会場

京都市総合教育センター　１階　第２研修室

３　出席者

⑴　選定委員　　１１０名

⑵　教育委員会事務局

佐藤総合教育センター所長，清水指導部担当部長，清水指導部顧問，

安藤学校指導課長，関学校指導課担当課長，竹内統括首席指導主事，中澤首席指導主事　他

４　議事

⑴　委員長から挨拶が行われた。

⑵　事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後，教科部会ごとに部会長及び指導主事から，調査研究の結果及び答申案についての説明を行い，外部委員からの意見を踏まえ，協議した。

（当日は，選定委員会と並行して，各教科調査研究部会も開催された。）

⑶　答申案については，委員長提案により正副委員長預かりとすることで了承された。

５　外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

⑴ 各教科内容について

・書写での学びは他の教科との関連が図られているのか。

→毛筆の筆づかいで止め・はねなど，国語科での漢字の学習をはじめ，他教科での書く活動に際し，字形を正しく書くことを意識付けている。

・算数科について，１年生のたし算が視覚的に分かりやすく示されている教科書があるが，全学年にわたって同じような工夫がなされているのか。

→全学年において同様の工夫がみられる。低学年では具体物の操作から抽象的な概念理解につなげる過程が丁寧であり，中学年以降でも内容の高度化に応じて発展的な学習と基礎的な学習を繰り返すスパイラルな学習を意識した工夫がみられる。

・図画工作科について，教科書上では，安全に対してどのような配慮がなされているのか。

→道具の使い方などに多くページを割き，写真やイラストを豊富に用いて，安全な使用を意識付けている。

・図画工作科で「造形的な視点で捉える」で２社に差が生じているが，判断の根拠は何か。

→鑑賞の題材において，１社は「龍」を取り上げている。素材としては優れた美術作品だが，新学習指導要領に示されている「実際に触れる」「置き場所を考える」という視点でみると，もう１社の方が伝統工芸品に加え，日常にあるうちわや扇，花器等を取り上げており，よく工夫されていると判断した。

・生活科について，教科書では児童が活動を通してあいさつや礼儀の大切さに気付くように工夫されているが，道徳の授業とはどのような点で異なるのか。

→生活科では，五感で感じ取ったり，体を動かしたりしながら，具体的な活動や体験を通して

生活を豊かにしていくための資質・能力の育成を目指す教科である。「活動や体験を通して」という点が生活科の大きな特徴であり，子どもたちの気付きの質を高める活動・体験が展開できるよう，教科書も工夫されている。

・音楽科について，リコーダーで演奏することが想定された教材があるが，児童によっては高音が出しづらく，難易度が高いのではないか。

→リコーダーでの演奏が想定されてはいるが，困難な場合は鍵盤ハーモニカ等，別の楽器を使用することも可能であり，使用する楽器が限定されるものではない。ただし，最初から別の楽器を選択するのではなく，まずはどの児童も演奏ができるようにするのが目標となる。

・音楽科の教科書において，教科書展示会での意見書にもあったが，鍵盤ハーモニカの指使いやリコーダーの運指の示し方について，調査研究部会での議論はいかがか。

→写真の見やすさや，記述内容の詳細さについて検討をした。いずれの教科書においても教員の補足によってより指導が深まる点があるため，今後の授業研究が大切になる。

・家庭科について，生活をより豊かにするため，どのような工夫がなされているのか。

→生活の中から課題を見付け，学んだことを家庭生活に還元するという流れが一貫しており，実践的・体験的な活動をくり返すことを通して生活をよりよくできるよう工夫されている。

・外国語科における語順を意識させる学習において，食物連鎖につながる内容が取り上げられているが，外国語科の学習で，あえて食物連鎖を取り上げる意図としてどのようなことが想定されるか。

→語順を意識させるにあたり，主語と目的語が入れ変わることで，文の内容が大きく変わるということを分かり易く学習するために，教科横断的な視点での理科との関連付けも含め，食物連鎖が取り上げられているものである。

・道徳の教科書について，別冊のノートはどのような評価をされたのか。

→別冊のノートが付いているか否かだけでは評価していない。付いているものについては，その形式や使いやすさ等について調査研究を行った。

⑵ その他

・ユニバーサルデザインについて，調査研究部会での議論はいかがか。

→色覚特性に対して，色だけでなく形でも分かるよう図示されたり，配慮がある一方で，児童の特性によっては見づらい部分もあり，授業時の教員の工夫が重要と考える。すべての教科に該当する課題として，今後の授業研究でも意識していく。